

SDGs 未来都市 こおりやま

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

みんなでつくる安全・安心なまち

A SAFE COMMUNITY

セーフコミュニティ郡山

日本通産

榮都
郡山

郡山市
イメージキャラクター
がくとくん

第38号

令和2年4月発行

～農家の皆さんへ～

郡山市 農政だより

祝 郡山市農業賞・農業奨励賞受賞



▲左から品川萬里市長、佐東富士夫様・真理子様、七海喜久雄市議会議員



▲中央 (有)ハッピーファーム代表取締役社長 安田潤一様・京子様



▲中央 畑中成純様



▲前列中央 アグリサポーターこおりやま会長 宮川 洋様、副会長 古山 賢一様、
後列 アグリサポーターこおりやまのメンバーの皆様

【郡山農業賞】

佐東 富士夫 様
有限会社 ハッピーファーム 様

【郡山市農業奨励賞】

畑中 成純 様
アグリサポーターこおりやま 様 (順不同)

令和2年1月15日(水)、郡山市役所特別会議室において令和元年度郡山市農業賞・農業奨励賞表彰式が開催されました。

農業賞を受賞された佐東富士夫様は、梨と稲作の複合経営に取り組みながら環境に優しい農業を実践するとともに、JA福島さくら郡山地区梨生産部会長として梨の海外輸出などを行い本市農業の発展と振興に多大な貢献をされております。

同じく農業賞の有限会社ハッピーファーム代表取締役社長 安田潤一様は、「安全でおいしく、より健康な農産物を届けたい」をモットーに素材にこだわった菌茸栽培を行っており、また指導農業士として後継者の育成等に尽力するなど本市農業の発展と振興に多大な貢献をされております。

農業奨励賞を受賞された畑中成純様は、『郡山市民食糧問題懇話会』に設立当初から携わり、また多年にわたり料理を通して本市の農業振興に貢献されております。

同じく農業奨励賞のアグリサポーターこおりやま様は、本市農業者が農作業の繁忙期において適期に円滑な農作業を実施できるよう支援するなど本市の農業振興に貢献されております。

各受賞者は表彰後、取組事例発表としてこれまでの営農及び活動内容の紹介を行いました。

【郡山市農業賞】昭和45年度から、本市農林水産業の発展等に意欲的に取組み顕著な業績をあげていると認められる個人または団体を表彰するものです。

【郡山市農業奨励賞】平成28年度から、先進的な取り組みを実施または、本市の農林水産業の発展に貢献のあった個人または団体を表彰するものです。

農学研究成果活用推進事業

連携している福島大学食農学類や東京農工大学の知的財産を活用し、公開授業・実践教育プログラムの実施や出張研究室の開設等を行っています。



福島大学の公開授業について

農業政策課 ☎924-2201

郡山市と福島大学は、農業と食品産業等の発展及び振興を図ることを目的に福島大学の公開授業を開催しています。

今年度は6月から計3回、各分野の専門家が講演する予定です。

どなたでも無料で参加できますので、ぜひご参加ください。



東京農工大学出張研究室を開設しました!

農業政策課 ☎924-2201

本市と連携協定を締結している東京農工大学の出張研究室を、西田町の旧根木屋小学校内に開設しました。

モデル植物工場（レタス、ブルーベリー等）、バイオ肥料、薬用植物などの研究を行う予定で、苗の供給等で市民の皆様に広く研究の成果を還元していく予定です。



▲小果実類等研究のために旧根木屋小に設置されたビニールハウス



栽培指導講習会・見学会を開催します

園芸振興センター ☎ 957-2880

●野菜栽培指導講習会＜基礎＞

内容 ズッキーニ、ナス等の露地野菜を中心とした栽培実習、講習

日程 4月30日(木)、5月14日(木)、5月28日(木)、
6月25日(木)、7月30日(木)、8月27日(木)(全6回)

*開催時間は、全日午前9時30分から正午までを予定しています。

●花き栽培指導講習会

内容 トルコギキョウを中心とした栽培実習、講習

日程 4月28日(火)、5月12日(火)、6月16日(火)、
7月14日(火)、8月4日(火)(全5回)

*開催時間は、全日午前10時から正午までを予定しています。

●見学会

内容 栽培状況見学、栽培に関する相談の受付

日程 6月18日(木)、6月19日(金)

*開催時間は、両日ともに午前10時から午後3時までを予定しています。

*栽培指導講習会参加希望の方は、**4月17日(金)**までに、園芸振興センターへ電話でお申込みください。



▲昨年の野菜栽培指導講習会状況(トマト)



▲昨年の花き栽培指導講習会状況(トルコギキョウ)



こおりやま園芸カレッジ(新規就農研修) 園芸振興センター ☎ 957-2880

1年を通じて、園芸作物での就農に必要な技術を学びます。

対象者 園芸作物により、こおりやま広域連携
中枢都市圏で就農しようとする18歳
以上60歳以下の方

研修内容 野菜、花き栽培技術研修
(播種から出荷まで)
農業機械に関する講習、農業経営に
関する講習等

受講料 無料



▲ナス管理



▲トマト管理



▲ミニトマト出荷調整

*令和元年度は2名の方が研修しました。
*なお、令和2年度の募集は終了しました。詳しくはお問合せください。



農産加工研修の受講者募集

園芸畜産振興課 ☎ 924-3761

会場 郡山市農産加工センター(郡山市逢瀬町多田野字南原17)

対象 全4回(8・9・11・1月予定)の講座を全て受講し、指導者認定会に参加できる方

定員 15名(定員になり次第締め切り)

内容 郡山市農産加工センターの機械操作及び基礎的な加工技術の習得

受講料 無料(材料費は自己負担となります。)

申込 4月6日(月)から5月22日(金)までに、住所、氏名、電話番号を記入し、郵送又はFAXにてお申込みください。
(あて先)〒963-8601 郡山市農林部園芸畜産振興課 FAX938-3150



農作業を支援する「アグリサポーター」をご活用ください

園芸振興センター ☎ 957-2880

園芸振興センターでは、「アグリサポーター育成講座」を開催し、農作業を支援する人材を育成しております。

当講座の修了生は農作業の基礎的な技術を習得しておりますので、繁忙期等に支援が必要な方はぜひご活用ください。



▲[果樹コース] ナシの摘果

農作業中の事故にご注意ください

園芸畜産振興課 ☎ 924-3761

これから、本格的な農作業の時期となり、農機具等を使う機会が多くなります。県内では毎年約10件の農作業死亡事故が発生しており、市内でも過去に耕うん機に巻き込まれる事故が発生しております。

農繁期を迎える前に作業を見直し、農作業事故ゼロを目指しましょう！



●作業計画を立て、余裕を持って作業しましょう！ ●無理なほ場への侵入、畔越えはやめましょう！
●機械の点検・清掃時はエンジンを切りましょう！



米の全量全袋検査及び塩化カリ肥料施用の終了について

(全量全袋)農業政策課 ☎924-2201
(塩化カリ)園芸畜産振興課 ☎924-3761

令和元年度も米の全量全袋検査に御協力いただきありがとうございました。

平成24年産米から実施してきた県産米の全量全袋検査については、国の基準値(100Bq/Kg)を超える米が流通・販売、食用に供されることがないように、農家の皆さまのご協力を得ながら実施してまいりましたが、5年間国の基準値を超える値が検出されなかったため、「全量全袋検査」から地域や生産者ごとに無作為で抽出した一部を検査する「モニタリング(抽出)検査」へ移行します。

なお、具体的な方法等は福島県と国とで調整しているため、決まり次第改めて皆さまへお知らせいたします。

また、水稻への放射性物質セシウムの吸収抑制対策として実施してきた塩化カリ肥料の施用につきましても、米の全量全袋検査において測定下限値(25Bq/Kg)を上回る値が2年間検出されなかったため終了することになりました。

今後におきましても、本県産米の安全・安心の確保への取組みにつきまして御理解・御協力をお願いいたします。

米の全量全袋検査の検査点数及び検査結果

(単位：点)

	25Bq/Kg (測定下限値)未満	25～50 Bq/Kg	51～75 Bq/Kg	76～100 Bq/Kg	100 Bq/Kg超	合計
24年産米	1,423,030	1,282	91	36	1	1,424,440
25年産米	1,463,939	164	6	0	0	1,464,109
26年産米	1,506,561	43	0	0	0	1,506,604
27年産米	1,366,560	25	2	1	0	1,366,588
28年産米	1,315,431	48	2	0	0	1,315,481
29年産米	1,255,120	9	0	0	0	1,255,129
30年産米	1,161,917	0	0	0	0	1,161,917
元年産米	1,102,268	0	0	0	0	1,102,268

食品衛生法に定める一般食品の基準値(100Bq/kg)を超えないことを確認し出荷しています。



作業機を直接装着したトラクタの公道走行が可能になりました

次の条件をクリアすれば、公道走行が可能になりました。詳細は農機販売店、国土交通省、農林水産省または(一社)日本農業機械工業会までお問合せください。

- 灯火器類の確認
- 車輻の確認
- 安全性の確認
- 免許の確認

【問合せ先】

農林水産省 生産局 技術普及課





棚田地域振興法が施行されました!

農業政策課 ☎924-2201

昨年、棚田地域振興法(棚田法)が施行されました。これにより、指定棚田地域において、市と地域住民等で指定棚田地域振興協議会を組織し、認定棚田地域振興活動計画を作成することができます。指定棚田地域であることや認定棚田地域振興活動計画が作成されていることによって、補助事業において補助率の嵩上げや要件緩和などの優遇措置を受けられる場合があります。

地域全体で保全したい棚田がありましたら農業政策課までご連絡ください。

【棚田地域振興法の流れ】

国から指定棚田地域(旧市町村単位)の指定を受ける

→指定棚田地域振興協議会を組織する(郡山市、地域住民等)

→認定棚田地域振興活動計画を作成し、国から認定を受ける

→上記計画に基づいて振興活動を行う



中山間地域等直接支払事業の第5期対策が始まりました!

農業政策課 ☎924-2201

中山間地域等直接支払事業(中山間直払)とは、農業生産条件の不利な中山間地域等において、集落等を単位に5年間継続して農用地を維持・管理していくための取り決め(協定)を締結し、それにしたがって農業生産活動等を行う場合に、面積に応じて一定額を交付する仕組みです。

令和2年度から第5期対策が始まり、要件等が大幅に見直しされ、より取り組みやすくなりました。また、昨年施行された棚田法に関連し、指定棚田地域が新たに対象地域に加わりますので、いままで対象とならなかったエリアでも取り組める可能性があります。



興味のある方はぜひお問合せください。

*制度の対象となるのはいくつかの要件(対象地域である、農振農用地区域である、傾斜が一定以上ある等)を満たす農用地です。詳しくは農業政策課にお問合せください。



多面的機能支払交付金を活用して、農地等の保全に御協力ください

農地課 ☎924-3921

農地法面の草刈り、水路の泥上げ、施設(水路・農道等)の軽微な補修や環境保全のための共同活動(植栽等)を支援する「多面的機能支払交付金」があります。

地域で組織を設立し、事業計画を作成後、補助金を交付します。

補助金は、作業参加者への日当の支払いなどに使うことができます。





水田営農計画書の提出をお願いします!

農業政策課 ☎924-2201

【主食用米の需要量の推移】



米の消費量は人口減少や少子高齢化に伴い、今後も毎年10万トンペースで減少することが予測されます。

このため、令和2年産も県・JA中央会・米の集荷業者団体等で構成する福島県水田農業産地づくり対策等推進会議では、地域ごとに生産数量の目安を提示し、その目安を郡山市農業再生協議会も農業者の皆様へ提示しました。

今後も、おひとりお一人が、米の消費量に応じた「目安」に基づく生産をお願いします。

また、国では需要に応じた米生産を推進するため、継続して水稻の作付面積を調査していますので、皆様の水田営農計画書の提出をお願いします。

なお、国の支援策「経営所得安定対策制度」の交付金を申請する方は、「水田営農計画書」及び「申請書

等」を定められた期限内に必ず提出し、加入手続きをしてください。

【令和2年度 経営所得安定対策等の概要】

1 収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）

交付対象者 認定農業者、集落営農、認定新規就農者

交付内容 米・麦・大豆の販売収入が標準的収入を下回った場合に、その差額の9割を国からの交付金と農業者の積立金で補填します。
※令和2年産から備蓄米も対象となりました。

2 水田活用の直接支払交付金 ※対象作物等は農業政策課へお問合せください。

交付対象者 水田で出荷・販売を目的に対象作物を生産（耕作）する販売農家・集落営農

支援内容 ① 戦略作物助成： 戦略作物の生産に対して支払います。
② 産地交付金： 戦略作物の生産性向上等の取り組みや地域振興作物の生産に対して支払います。

3 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

交付対象者 認定農業者、集落営農、認定新規就農者

支援内容 ① 数量払： 麦、大豆、そば、なたねの当年産の出荷・販売数量に対して支払います。
※未検査、規格外品は交付対象外です。
② 面積払： ①の内金として、当年産の生産面積に基づき交付します。



農地中間管理事業を活用しよう

農業政策課 ☎924-2201

農業をリタイヤする方や経営規模を縮小したい方、経営規模を拡大したい方、また、相対で農地を貸借している方、農地中間管理事業を活用しませんか。

農地中間管理事業は、農地バンク（農地中間管理機構）が農地の所有者から農地を一旦借り受け、規模拡大したい担い手に転貸する制度です。

貸借の手続きが簡単で、賃借料の支払い手続きは農地中間管理機構が行います。

公的機関ですので安心です。農地を貸したい、農地を借りたい方はご相談ください。



市場のイベント

郡山市総合地方卸売市場では、市民の皆さんに卸売市場の役割や仕組みについて理解を深めていただくとともに、市場の活性化と生鮮食料品の消費拡大を図るため、様々なイベントを開催しています。



市場の朝市(毎月第4日曜日 午前6時30分から9時)

朝市実行委員会 ☎962-9976

卸売市場では毎月「市場の朝市」を開催しています。
市内外から毎回多くの方が訪れ、新鮮な野菜や果物、魚介類、水産加工品等を買求める人々で賑わっています。



▲「市場の朝市」での模擬せりの様子



夏休み親子市場たんけん隊

市場管理事務所 ☎961-1140

親子(小学生とその保護者)で、市場施設やマグロが解体される様子の見学、市場で行われるセリの体験など、市場を楽しく学んでいただきます。



▲親子たんけん隊でのマグロの解体見学の様子



市場料理教室

市場管理事務所 ☎961-1140

市場に流通している生鮮食料品を使用し、講師には専門の先生をお招きした料理教室を実施して、食材への知識や理解を深めていただきます。
(開催例:親子で料理づくり、魚の捌き方講習など)



▲料理教室(親子で料理づくり)での調理の様子



「人・農地プラン」の作成・見直しについて

農業政策課 ☎924-2201

「人・農地プラン」とは、地域農業の基礎となる人と農地の問題を解決していくために、地域における話し合いを通じて作成する「未来の設計図」です。

プランが検討会を経て決定され、事業要件に合致すれば各種事業の対象になる場合があります。

ご希望のある地域・集落で随時説明会を開催しておりますので、農業政策課までご相談ください。



農地の基盤整備事業について

農地課 ☎924-3921

基盤整備事業では、ほ場整備の大区画化や農業用排水路、農道等の整備により、効率的で生産性の高いほ場を造成し、農業生産性の向上を図りながら、農業担い手への集積を推進します。

事業計画に際し、必要な採択条件については(地権者の同意、担い手への集積、地元の費用負担割合など)農地課へお問合せください。

〈イメージ〉





農業振興アドバイザー活動紹介

農業政策課 ☎924-2201



本市では4人の農業振興アドバイザーを委嘱し、専門的な視点からアドバイスをいただいています。



いまがわ なおと
今川 直人氏

アジア人材育成有限会社校長

ベトナム在住のため、農産物輸出による販売促進のためのアドバイスを、電子メールによりいただきました。



ねもと けいすけ
根本 圭介氏

東京大学大学院 教授

飼料用米・米粉用米の需要拡大に伴い、郡山市でのインディカ系多収量米4品種の栽培実証試験を行い、米粉製品への加工・調理に係る指導をいただきました。



みつもと たか つぐ
光本 孝次氏

帯広畜産大学名誉教授

令和元年12月5日に、郡山石筴ふれあい牧場にて、「乳牛の改良について」と題し、遺伝的改良により乳牛の能力や体型改善を行い、酪農生産基盤の維持強化や生乳の安定供給を可能とするための取り組みについて、酪農家を対象とした研修会を開催しました。



みながわ よしつぐ
皆川 芳嗣氏

株式会社農林中金総合研究所 理事長

令和元年12月24日に、福島さくら農業協同組合日和田総合支店にて、「農福連携とは何か」と題し、農業と福祉が連携し、障がい者の農業分野での活躍を通じて農業経営の発展とともに、障がい者の社会参画を実現する取り組みについて講演会を開催しました。

山火事の防止について

林業振興課 ☎924-2231

春先は空気が乾燥し、山火事が起きやすくなります。
たき火やたばこ等、人の不注意によって起きています。
貴重な森林を山火事から守るため、火の取り扱いに十分注意してください。



郡山市産の野生きのこ・山菜類は出荷販売ができません

林業振興課 ☎924-2231

野生きのこや、野生のたらのめ、野生のうるい、こしあぶら、たけのこ、こごみ、ぜんまいの山菜類については、国から出荷制限等が指示されていますので、出荷、販売をしないでください。



◆農業政策課 ☎924-2201

◆農地課 ☎924-3921

◆園芸畜産振興課 ☎924-3761

◆林業振興課 ☎924-2231

◆総合地方卸売市場管理事務所 大槻町向原 ☎961-1140

◆園芸振興センター 逢瀬町多田野 ☎957-2880



郡山市農政だより 第38号(令和2年4月)

編集発行: 郡山市農林部農業政策課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目23-7
TEL.024-924-2201 FAX.024-938-3150

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



この印刷物は、適切に育まれた森から生まれたFSC®認証紙と、環境にやさしい植物油インキを使用しています。
この印刷物は印刷用の紙へリサイクルできます。

